

科の動き

一九五六年度の歩み

五月十日 社会福祉学科研究会総会（学生主体のもの）、卒業生の社会福祉学研究会と合流することに決定。
 五月十三日 新制六回生主催セツツルメント建設募金音楽会を開催。（於大隈講堂）
 五月十五日 全国児童福祉大会（愛媛県）に研究室から吉沢出席
 六月三日 日本社会福祉学会関東支部会総会、日本社会事業短期大学にて開催。研究室から菅、篠崎、松本、前田、一番ヶ瀬、田宮、吉沢、新井出席。松本「ケース記録からみた日本のケースワークとケースワーカーの訓練」を発表。総会に於て卅一年度より二年間関東支部会事務局の責任を本学科が負う事となる。
 七月四日 新宿生活館を研究会全員にて見学。
 七月六日 日本社会福祉学会関東支部会研究例会、本学にて開催。
 九月十八日 日本社会福祉学会関東支部会研究例会本学にて開催。
 十月十三、四日 日本社会福祉学会同志社大学にて開催。研究室から菅、松本、前田、吉沢出席。前田「老人施設に於けるグループダイナミックス」。吉沢「児童福祉活動に対するコミュニティ・ニードとその活動範囲について」を発表。
 十月十七日 日本社会政策学会九州大学にて開催。一番ヶ瀬「婦人労働と家族制度」を発表。
 十一月二、四日 目白祭開催、当学科は「児童はいかに守られているか」を発表。
 十一月十三日 全国社会福祉事業大会総会。
 十一月十五日 日本女子大学家政学会社会福祉学研究会開催。
 十一月十七日 池田きみ枝氏「労働行政について」講演。
 十一月十六日 社会事業大会研究発表会にて松本「大学と施設との関係」を発表。
 十一月二十日 関西学院大学竹内愛二教授「社会事業の諸問題」を講演。
 十二月一日 現場実習先御礼の会及び懇談会。
 十二月四日 日本社会福祉学会関東支部会研究例会本学にて開催。
 一月二十二日 新制七回生主催、セツツルメント建設募金音楽会を開催。（於日本青年館）
 二月二十六日 日本社会福祉学会関東支部会研究例会本学にて開

目白祭について

一、各科の独自性を生かす。
 二、展示方法を研究する。
 三、講堂建設基金の一部を生みだす。
 の三つの目標を掲げた第四回目白祭は、映画会、新制作座による「涙かぶら」上演などの新しい企画を盛つて、十一月二日より三日間にわたつて行われた。
 社会福祉学科では、児童憲章制定五周年に際し、児童福祉の問題を広く一般の人々と共に考えようとの意図から、別掲の展示及び映画「夜間中学」の映写を行なつた。生活と直結した社会問題と取組む、本科独特の研究発表は、毎年、広く注目を集めてきているが、今回も、熱心な観客を呼び、多くの批判と激励が寄せられた。
 四月から始められた研究は、例年よりはいくらか早いテンポで進められ、夏休みには全国各地の十円玩具を蒐集する等の着実な歩みを示したが、私達は、この半年間の研究生活を通して、展示に表わされた或いは、スペースの関係上、発表出来なかつた大きな成果を得たと同時に、先達が残された経験とアドヴァイスの尊さ、及び協力の尊さを身をもつて知つたのである。
 広い範囲にわたつて、児童福祉の諸問題を採り上げた私達は、今少し、問題の焦点をしばつても良かったのではないかと考えているが、目白祭について、マンネリズムに陥ることが一部で懸念されている今日、目白祭における発表にどの程度の一般性を持たせるかは、一つの大きな考慮すべき問題ではなからうか。
 ※次頁の折り込みは、当日の展示に若干の修正を加え、縮小したものである。紙数の関係上、全部を集録出来なかつたことを残念に思う。